

2022年3月30日

各位

アストモスエネルギー株式会社

## 亜臨界水処理技術による有機物燃料化事業への参画について

アストモスエネルギー株式会社(本社:東京都千代田区 社長:小笠原 剛、以下「当社」)は、未使用資源\*1をエネルギーにして循環型社会の実現に向けて取り組んでいるベンチャー企業、サステナブルエネルギー開発株式会社(本社:宮城県仙台市青葉区 社長:光山昌浩、以下「SE社」)に出資し、可燃ゴミなどからバイオ燃料などのグリーンエネルギー製品\*2を生成するSE社の技術であるISOPシステム(以下、「ISOP」\*3)を活用した有機物燃料化事業に関する業務連携、共同検討を開始しました。

脱炭素化の流れが加速する中で、SE社は環境負荷低減システムの開発事業者として、当社はLPガスの供給及び販売事業者として、日本国内における有機物燃料化事業を推進し環境負荷の少ない事業形態を模索するとともに、ISOPを大型LPガスタンカー等の船舶に搭載し、船上で発生する廃棄物の燃料転換の導入検証を進めていきます。

有機物燃料化事業を推進することにより、社会問題の解決や脱炭素化に貢献する新規燃料事業の立上げを喚起することを目的に、共同検討を実施します。

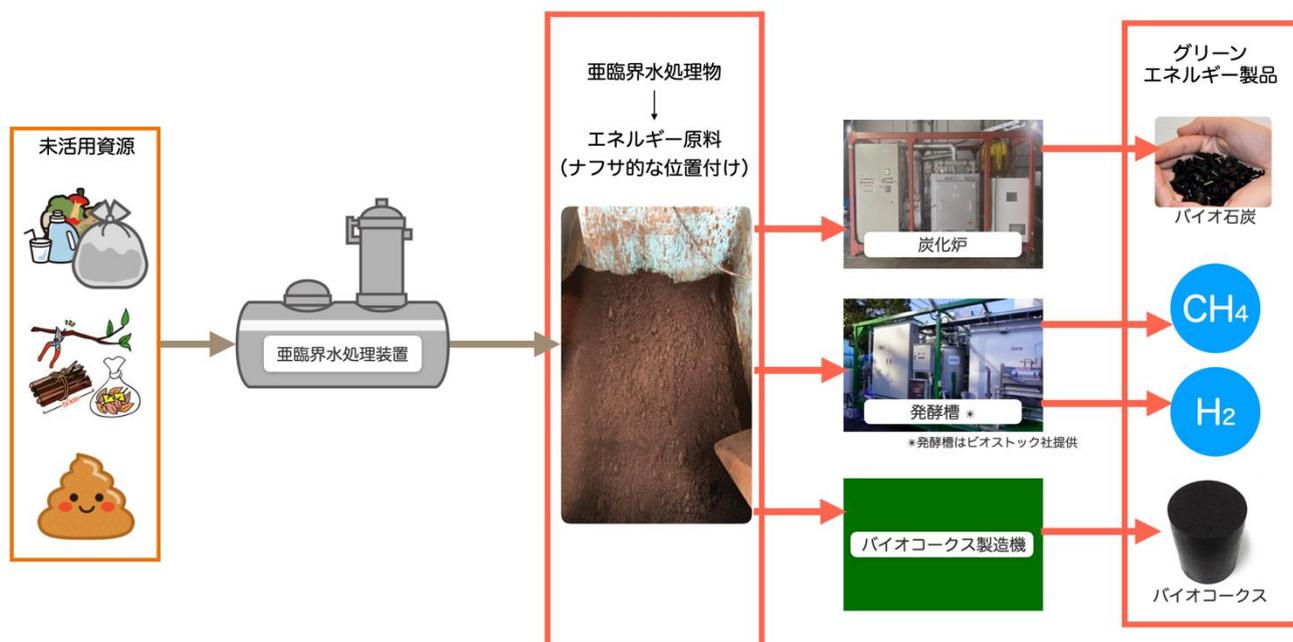
\*1 未使用資源とは、生ごみ・紙類、ビニール・プラスチック、発泡スチロール、衣類、廃棄食品、有機汚泥、畜産糞尿・ヘドロ、木片など

\*2 グリーンエネルギー製品とは、バイオ石炭、バイオメタン、バイオ水素、バイオコークスなど

\*3 ISOPとは、亜臨界状態にある水が持つ強い加水分解能力を活用した亜臨界水処理装置を核とした一連の装置群で、廃棄物などの未活用資源からグリーンエネルギー製品を生成することが可能なものです。この際、これまで必要だったゴミ分別は不要で、大規模装置から超小型装置までの製品群を備えていることから、移動が可能な車載型や船舶などへの搭載なども想定しています。なお、ISOPにはボイラー式と電気式とがあり、当社が供給するLPGをボイラー式の燃料として利用するほか、車載型では移動式の発電車両の燃料として使用することを想定しており、災害時にも効果を発揮する移動式有機物処理システムを構築することも検討します。

# News Release

## 【ISOP 図解】



## 【SE 社概要】

- 社名** : サステイナブルエネルギー開発  
**設立年月** : 2014年6月  
**住所** : 宮城県仙台市青葉区中央 3-10-11  
**代表者** : 代表取締役 CEO 光山昌浩  
**事業内容** : 再生可能エネルギー等による発電・燃料化施設の設計/運営  
バイオマス資源関連事業

以上

**【本件に関するお問い合わせ先】**

人事総務部 進藤 電話:080-8435-2515

e-mail: kuniaki.shinto@astomos.com

URL:<http://www.astomos.jp>